

登録文化財の詳細説明

鴻池組旧本店洋館・和館について

○名称及び建築年代

鴻池組旧本店

洋館：明治43年（1910）／大正3年（1914）改修

和館：明治43年（1910）／昭和前期増築

以上2件

○所在地

大阪市此花区

○登録基準

基準（二）造形の規範となっているもの

○建造物の説明

鴻池組旧本店は、建設会社鴻池組の創業者である鴻池忠治郎こうのいけちゅうじろうによって建設されたもので、洋館と和館が東西に接して建てられています。どちらも木造2階建てで、洋館は寄棟造で屋根はスレート葺き、外壁はモルタル仕上げに煉瓦タイルによるボーダーラインを廻らせています。一方、和館は切妻造瓦葺きで、重厚な町屋のつくりをしており、袖壁を立ち上げ、軒下を漆喰で塗り込めており防火対策がとられています。

注目されるのは洋館2階にある応接室の内装です。暖炉廻りや収納棚には当時流行していたアール・ヌーヴォーの装飾が濃密に施されています。また、玄関ホールには木内真太郎きうちしんたろうによる2羽の孔雀とバラをモチーフにしたステンドグラスがはめられています。和館には書院風・数寄屋風の座敷があり、その欄間や階段親柱に彫刻家の相原雲楽あいはらうんらくの作品を見ることができます。

以上のように鴻池組旧本店は、当時流行した意匠を用いた洋館と、重厚ながら繊細な意匠の和館とが残る貴重なものであることから、登録基準（二）「造形の規範となっているもの」に該当するものと評価されました。

※鴻池忠治郎（1852－1945）：20歳で家業を継ぎ、運送業に加えて労務供給業に着手し、明治30年代から建築・土木業に本格的に進出する。事業拡大に伴い発祥の地である北伝法村に本社社屋を建築した。

※木内真太郎（1880－1968）：東京駅や大阪市中央公会堂などのステンドグラス製作で知られる。大正5年に独立し、大阪末吉橋で開業している。

※相原雲楽（1878－1954）：彫刻家の高村光雲に弟子入りし、その技量を住友家当主に認められ、住友家須磨別邸の工事などに携わった。

旧京都大学高槻農場について

○名称及び建築年代

旧京都大学高槻農場

本館及び付属屋 昭和5年（1930）／令和2年改修

別館 昭和7年（1932）／令和2年改修

加工室 昭和8年（1933）／昭和10年（1935）増築／令和2年改修

農具舎 昭和5年（1930）／令和2年改修

以上4件

○所在地

大阪府高槻市

○登録基準

基準（二）造形の規範になっているもの

○建造物の説明

旧京都大学高槻農場の建物群は安満遺跡公園に所在しており、このたび敷地内に残る歴史的な建造物4件が登録されることになりました。現在レストランや展示施設として活用されています。

本館は、中央部を二階建とし、正面にパーゴラ状の庇を付し玄関としています。外観は二階に縦長アーチ窓を連続して配し、スパニッシュを基調とした意匠となっています。別館は本館の東側に建ち、天井や金物に幾何学調の意匠を施した瀟洒な建物です。農場加工室は本館の西側に建ち、背の高い縦長窓を並べた開放的なコテージ風の建物です。農具舎は、本館の背面側に建ち、建物東側の庇を大きく伸ばした外観が特徴的です。

これらの建物の設計には、京都帝国大学営繕課として武田五一、大倉三郎が関わっており、全体的に赤瓦、白壁の意匠がされ、統一感のある建造物群となっています。

以上のように旧京都大学高槻農場は、安満遺跡に残る貴重な大学農場施設群であり、登録基準（二）「造形の規範となっているもの」に該当すると評価されました。

※武田五一（1872-1938）：明治後期から昭和初期にかけて活躍した建築家。京都帝国大学（現：京都大学）に工学部建築学科を創立、初代教授を務めた。アール・ヌーヴォーやセセッションを日本に紹介したことが知られる。

※大倉三郎（1900-1983）：京都を中心として活躍した建築家。京都芸芸繊維大学学長、西日本工業大学学長などを務めた。

安田家住宅主屋について

○名称及び建築年代

やすだけしゅうたくおもや
安田家住宅主屋 延享3年(1746)頃/明治前期増築・昭和前期改修

以上1件

○所在地

大阪府柏原市

○登録基準

基準(二)造形の規範になっているもの

○建造物の説明

安田家は、柏原市青谷区に所在し、古代より難波と大和を結ぶ主要路であった龍田道沿いの集落に建つ旧家で、周囲は歴史的な街道の景観が残っています。

今回登録されることになった主屋は、入母屋造で茅葺の大屋根に、本瓦葺の下屋を付した大型の民家です。柏原市内において現存する茅葺民家は極め少ないことから貴重と言えます。

内部は土間部分と居室部分とに分かれており、土間は煙返しの大きな梁が特徴的です。居室部は、ダイドコの敷鴨居しきがもいに突止め溝を用いられており、建具装置に本主屋が建てられたと伝わる江戸中期頃の特徴が残されている部分と、明治前期頃に増築されたザシキ部分とで様相が大きく変わります。

以上のように安田家住宅は、青谷において庄屋を長らく務めた旧家の格式を伝える貴重な建物であり、登録基準(二)「造形の規範となっているもの」に該当すると評価されました。

※敷鴨居 同一材で敷居と鴨居を兼ねた部材のこと。

※突き止め溝 民家で、敷居や鴨居の溝を全部通さず、建具を引く長さだけ彫った溝のこと。

写真



写真1 鴻池組旧本店 洋館



写真2 鴻池組旧本店 和館



提供：高槻市

写真3 旧京都大学高槻農場 本館及び付属屋



提供：高槻市

写真4 旧京都大学高槻農場 別館



写真5 安田家住宅 主屋